

令和5年度公営企業（水道・下水道事業）会計決算審査意見書にかかる措置状況通知

意見・要望事項（監査委員の意見・要望事項）	措置内容、対応、考え方等（意見・要望事項に対する所管の回答）	
<p>水道事業の安定的な事業運営について</p> <p>水道事業は市民生活に欠かせないインフラとして安定的な水資源の供給、独立採算制に基づいた持続可能な事業運営が求められている。</p> <p>そのような中、令和5年度の決算状況を見ると、人口の停滞、節水型機器の普及等に伴い配水量が減少した反面、事業費用は電力等動力費の高騰や委託業務の人件費の増大などにより確実に増加をしている。その結果、供給単価（販売）と給水原価（生産）の比較である料金回収率からは、生産費用が販売収入を上回る逆ザヤ状態であることが分かり、令和5年度は前年度より10円近く逆ザヤ状態が広がった。</p> <p>これまでは、この不足分を加入金で補ってきていたが、新たな住宅開発も一段落した志木市では加入金の大きな伸びも望めない。</p> <p>管路経年化率では、法定耐用年数を経過した管路が増加し、令和5年度は20%を超えた。また、本市の水道用水の60%を占める埼玉県水道用水供給事業の料金においても見直しが予定されており、現行の料金から値上げされることが予想される。</p> <p>このことから、今後は持続可能で安定的な経営が確保されるよう、なお一層事業の見直しに努められたい。</p>	担当部課	上下水道部 上下水道総務課
	<p>大口需要が少ない本市においては、水道料金のみでの黒字経営は難しく、それを補っているのが加入金です。</p> <p>しかしながら、加入金が納入されるということは、新築や増築などで新規にメーターが設置されることであり、この場合、節水機能が向上している機器が取り付けられるため、メーター数と水量の増加の幅が以前に比べると乖離していくことになります。</p> <p>加えて水の消費者である市民（給水人口）そのものの減少もあり、今後、有収水量が大きく増加していくことは期待できません。</p> <p>このことに対し、上下水道部として、包括業務委託を進めるなど、費用の削減を図っているところではありますが、大幅な収支状況の改善には至りません。</p> <p>加えて、ご指摘のとおり法定耐用年数を経過した管路の更新が必要なことや、埼玉県の水道用水供給事業の単価改定が予定されていることなどから、現状のままでは、5年以内に累積赤字に転落することも考えられます。</p> <p>このことから、大幅な経営転換への着手は必須であると考え、受益者負担の原則に基づいた料金改定、W P P P (官民連携による運営方法の一種)の効果などの検討を進めていくところです。</p>	